

耳で読む本をつくろう ²⁰²³

児童文学アワード 受賞作家さんの声



児童文学部門 最優秀賞

ゆうきくまおさん「カノ一星のちょうちょ」作者

受賞連絡が来た時の気持ち

受賞するだろうなとは思っていたので、特段驚きはありませんでした。嘘です。私は作家を目指して一年前からいろいろな公募に応募しているのですが、電話連絡というのははじめての経験で、飛び上がるほどうれしかったです。「私、児童文学アワードの…」と聞いた段階からドキドキが止まらず、さらに最優秀賞と聞き、正直その後の内容はあまり頭に入ってきませんでした。すみません。ただ、電話口の担当の方がとても物腰やわらかで、その声に癒されたということだけはよく覚えています。関西弁っていいですね。

作品に込めた想い

自分の中にある可能性は無限大なんだ、なんだってできる、なににだってなれるということをお伝えようと考えました。ターゲットは小学三年生くらいを想定していますが、そのくらいの年になると、ほかの子と比べたり、自分の得意不得意がだんだんわかってくるのではないのでしょうか。でも一番大切なのは、自分がどうしたいか。他人の意見などに左右されず、好きなことに正直に、のびのびと育ててほしいです。何歳になってもなにかをするのに遅すぎることはないということ、物語を通して気づいてもらえたらいいなと思います。

物語のアイデアのきっかけ・なぜこの話を書こうと思ったか

私には三歳の娘がいます。今はちょうど何でも自分でやりたいけどうまくいかない時期で、よく「できないよー！」と不機嫌になります。そんなときは「できるできる、なんでもできる！〇〇ちゃんの可能性は無限大なんだから」と夫婦で励まします。すると娘はなんだかんだまたチャレンジして、何回かやっているうちに案外できちゃうんですねこれが。それで思ったんです。自分が勝手に諦めちゃってるだけで、本当にできないことって実はあんまりないんじゃないかなって。きっとこの気づきを待っている人がいる。そう思い筆を執りました。

子どもたちにどんな風に聞いてもらいたい？

耳で聞くということも意識して、オノマトペを多用しています。ぜひ文章そのものの音やリズムを純粹に味わってください。作品の中でカノ一星に住む人が何人が登場します。風のように足が速かったり、未来を予知することができたり……。そのほかにどんなすごい能力を持った人がいるのか、想像しながら楽しく聴いてもらえたら嬉しいなと思います。ポジティブな言葉を聞くとやる気が湧いてきます。言えばもっとやる気が出ます。ぜひ一緒に言ってみてほしいです。「できる、できる、なんでもできる！ぼく／わたしの可能性は無限大だ！」